

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの機能・役割を理解した上で、住み慣れた地域で入居者の希望に添う暮らしが続けられるよう理念を創り上げた。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り終了後に理念を読み上げ、理解を得、一日の行動計画を立て実現に向けて取り組んでいる。	○	職員全員が理念を熟知し、理念を具体的に分かりやすい言葉で説明できるように努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	重要事項説明書に明記されており、利用案内時に入居者家族に分かりやすく説明している。また、理念を玄関の見やすい場所に掲示し、交流時に説明している。	○	もっとホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、広報誌などを作成し活用していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いはしてはいないが、声かけはしている。	○	隣近所の人が気軽に立ち寄ってもらえるようなきっかけ作りや工夫をしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会、老人会の方を行事時に案内し交流を行なっている。母体病院で開催される行事へは参加している。	○	地元の行事や地域活動に積極的に参加し、交流を深めていきたい。

記入日:平成19年11月15日

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の民生員や老人会、さらには地域の学校の見学・体験学習を受け入れ、認知症高齢者の正しい理解が行なわれるよう、分かりやすく説明を行なっている。		母体病院が計画している学生の職場体験実習を病院と共に受け入れを行なっている。
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価から理解を深め、制度の意義を確認し評価した事で日々の支援方法、変化、成果をスタッフ同志で確認しあっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年6月から2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しており、会議の内容を議事録にまとめ、意見をサービス向上に活かしている。また、地域行政との情報交換を行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のパンフレット配布や入居者受け入れの相談等で市高齢福祉課や地域包括支援センターを訪問し、情報の交換や指示を仰いでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料やパンフレットを利用して制度の理解に努めている。現在制度が必要な入居者がいない為、制度の活用までには至っていない。	○	制度の必要な利用者が出たら関係機関に相談して活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学ぶ機会や場を得てないが、事業所内でのスタッフによる虐待がないよう防止の徹底や指導監督をしている	○	高齢者虐待法についての勉強会への参加を行い、スタッフ1人ひとりが虐待に対する認識と知識を深められるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際に時間をかけて契約文を十分に説明し、納得と理解を得ている。又、利用のメリットだけでなくリスク面も伝え家族からの不安や質問にも適切に説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎朝の朝会で入居者とのコミュニケーションを図りながらその中で入居者の意見を聞いて些細な訴え言動があれば検討会を持ち意見や苦情に迅速に対応できる体制を整えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話での報告や家族の面会時や家族会の中での報告などを行っている。必要時には家族との面談を持ち相談することもある。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者の生活状況の報告をしながら家族の意見などを聞いている。又 家族が直接職員に話せないときには御意見箱を利用して貰えるように玄関先に設置してある。現在不満苦情の訴えはない。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている定例のスタッフミーティングでスタッフからの意見、提案を聞いてその場で意見に対する検討会を行い運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の生活状況に合わせた勤務体制と、必要に応じた勤務調整をスタッフと話し合い柔軟に行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置移動はないが、離職による職員の入れ替わりはある。いままで職員の入れ替わりによる入居者への影響は見られなかった。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体病院の計画する研修会や勉強会への参加と沖縄県グループホーム連絡会の主催する研修会 勉強会に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県のグループホーム連絡会に加盟し、管理者会議において管理者間の交流を深め、施設見学会では相互訪問等の活動を通じ職員同士の交流を行い質の向上を図っている。	○	近隣のグループホームへ出向いて施設の見学や職員間の情報交換等を行い交流を深めていけるよう取り組みをしていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	相互が気軽に話し合えるような場作りを行っており、ミーティングの場等でストレスをためないように自由に話し合いがもてる雰囲気作りを行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面談等を行い職員個々の努力、実績、力量、勤務状況等の評価をし、向上心を持って働けるよう励ましている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時のアセスメント収集の時本人や家族からの聞き取りを行い状態像や生活特性などを把握し、本人のペースに合わせて面談を行い受容的に接するようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居契約時を含め初期の相談は家族の話を十分に聞ける時間を設けている、家族から話される事に対して受容的に受け止め方向性について家族と職員で相談している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容並びに本人の心身の状況を把握した上で、ニーズに対応するサービスの情報提供を行っている、あくまでも自己決定に基づいた支援を行っている為家族 自らが選択できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意志を確認しながら本人のペースに合わせた対応で場に馴染んでもらえるよう、環境設定に配慮している。		家族の希望や本人本位での体験利用等を行っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に入居者1人ひとりの人格を尊重し、残存能力を引き出し本人の能力にあった役割の分担を行い共に支えあう関係を築いている。		特技を持っている入居者にはそれぞれの先生に仕立ててスタッフが教わるような場面作りをしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者本人が抱えた課題を職員だけでなく家族とも本人の思いを共有した上で一緒に協力し支援を考えるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係が疎遠にならないように日用物品はホームでの注文をひかえ家族持込にしている、本人との会話の中に家族の話題を取り入れたり本人と家族の間をとりもつ配慮も心掛けている。		家族が面会時に余暇活動の中に入って一緒に過ごす事もある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で入居者がこれまで馴染親しんだ人の話や場所の話が出たら極力その話をするように心掛けている。		ドライブの際懐かしい思い出の場所を巡る等目的を持った取り組みをしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	聴力障害等で上手く場に馴染めない入居者には職員が耳の補助役になるなどして孤立する事のない環境作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族から相談があれば電話連絡等で身体状況及び認知症の諸症状の確認などを行い一緒に考えるようにしている。		他施設への転居希望がある場合には情報の提供と紹介などを行っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時や日常生活の中で、本人の暮しへの意向や希望を聞き取り、家族も含めた「その人らしさ」を前提に検討している。		入居時相談時や入居後の生活の中で、希望や意向を聞くようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に入居アセスメント表をもとに本人及び家族から生活歴や趣味、嗜好、性格等の情報を聞き取りしている。又担当していたケアマネージャや掛かりつけの病院からの情報収集を行ったりしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の関わりの中で1人ひとりの状態像をつかみ、個々のもっている能力や本人の希望を確認しながら本人に合った生活リズムを把握し生活支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望、意向をもとに本人の思いがかなえられるようなケアプラン作成を心がけ、スタッフを含め主治医 他関係者の意思を確認し自立支援に向けた介護計画の立案を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が本人に適しているかを確認し、心身の状態の変化に合わせた計画の変更を行うように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で生じた心身の状態変化や言動の変化などを介護記録に残し、申し送りで情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて外出・外泊の援助を行い、本人と一緒にでの家庭訪問の援助も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の老人会の訪問、近隣の学校より職場体験の受け入れ、事業所行事へのボランティアの参加、避難訓練時の消防との連携などにより入居者に地域社会とのつながりを感じてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退去後、他のサービスを希望される入居者や当事業所への入居希望の際、必要に応じて他のサービス事業者との連携をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の委員の中に地域包括支援センターの職員が含まれており会議の時や必要時に情報交換行っている。現在入居者の中に権利擁護を必要とする人はいない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員の主治医が母体病院の医師である為定期外来診察や急変時の緊急対応体制が整っている。		母体病院の緊急体制網が確立されており緊急時には医師や看護師が何時でも駆けつけてくれる体制になっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の主治医が認知症に知識と見識のある医師である為何時でも助言や指示が受けられる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体病院の外来を定期的に診察する為外来の看護師は入居者の健康に関して理解しており支援をしてもらっている。		入居者の身体面や他の事で診察日以外にも看護師と相談したりしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居や退去時に、主治医、ケースワーカー、管理者や家族と相談を行い入居や退去に向けた情報交換を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度化や終末期の対応はなく、終末期に向けた方針や受け入れについての検討もされてない。	○	今後受け入れについては医療関係者や運営者と相談していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化 終末期に向けた取り組みや支援はしていない。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在の情報提供を行うと共に、今までの関わり支援を元に環境の違いによって予測される精神的不安やリスクを事前に知らせ、情報提供の協力を行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者1人ひとりの病状の特性を把握し、プライバシーを損ねない配慮やプライドを傷つけない対応を心掛けている。情報の守秘義務の徹底に努める。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常の生活場面や余暇活動等の中で入居者1人ひとりの能力を見極め、意思表示や選択肢の場面を設定し本人が自己決定できる機会を設けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりの意見を尊重し、自由に自分のペースを保ちその人らしい生活のリズムを継続できるように生活の支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の希望や好みに合わせた服装の選択、ボランティアによる整髪支援 家族と共に行きつけの理美容院への外出も行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じ食卓で一緒に食事をしている。準備や片付けは入居者1人ひとりの力に合わせて役割を決めて職員と一緒にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在入居者の中に、朝の目覚めの時と食後にコーヒーを楽しんでいる人がいる。暴飲がないよう注意をはらいながらコーヒーを楽しんでもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。日中は綿パンツを使用し排泄の習慣づけが出来るよう支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間を日課の中に組み入れているが、本人の希望する曜日時間に何時でも入浴が出来る体制は整えている。本人の体調にあわせた入浴を心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者1人ひとりの睡眠パターンを睡眠チェック表等で把握し、昼夜逆転がないよう日中の活動に参加を促し、一日の生活リズム作りを通した安眠策を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者1人ひとりの趣味・特技にしているものを引き出し、生き生きとした場面作りを支援している。個々の力にあった役割分担を行い、役割意識を持たせた活動支援を行っている。		役割活動として食器洗いや洗濯物たたみ、お膳拭きなどを行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に応じ、自己管理を希望する入居者へはお金と財布を持たせている。お金は使いやすいうように小銭を多めに持たせている。	○	お店が遠くにある為徒歩での買い物が難しく、お金を使う機会が少ない。今後はドライブの中に買い物等を企画していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地や庭園周辺に植えてある果物の収穫時には、散歩しながら収穫を楽しんでいる。天気の良い日には庭園にある茶屋で茶話会をたのしんだりする。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎週1回行っているドライブを利用して、1人ひとりの希望する行きたい場所へ連れて行っている。家族との外出やドライブ支援も行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自由に電話できるようにホール内に公衆電話を設置している。殆どの入居者に聴力の低下があり職員が電話対応の支援を行っている。	○	今後は電話だけでなく手紙でのやりとりが出来るように取り組みを支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に訪問できるよう家族とコミュニケーションを図り、来所時は自由に居室への訪室ができ居室や共有スペース等でゆっくり過せる場を確保している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の理念に掲げており、全職員が拘束に対する認識を持ち理念を理解し、理念に反する拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は極力鍵をかけない対応を心掛けている。玄関前に音の出るセンサーを取りつけ外へ出て行く入居者がキャッチ出来るよう物理的に工夫している。出ても直ぐに呼び止めることをせず見守り支援を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の部屋の入り口のドアに観察口が作られており、ドアが閉められている時は開けずに観察口から確認している。鍵は緊急時に容易に開けられる構造になっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者1人ひとりの能力に合わせた物品の管理支援を行っている。リスクの高い物品は置かないようにしている。服薬の管理は職員が行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	生活上のリスクを申し送りで情報を共有し、予測されるリスクを職員全員で検討している。その情報を家族へも報告し、家族からの情報も得ながら未然の事故防止に努めている。		夜間の転倒防止の取り組みとして毎時間の巡視と、転倒のリスクの高い入居者のベットの柵に離床するのが確認できるように鈴を取り付けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体病院のCPR(救急法)委員会が定期的に行っている救急法の実地訓練や勉強会に参加している。対応のながれのマニュアルを整備している。		年に1～2回 救急法委員会の職員の指導で事業所単独での勉強会も行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体病院と一緒に年2回の防災訓練を行い避難誘導などの確認をしている。災害時には母体病院からの応援体制が整っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	現在の状況から予測されるリスクを家族と話し合い対応方法を検討し、威圧感のない対応策での対応を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定及び食事量、排泄、睡眠をチェックし、日頃の状況を把握し体調の変化や異変に気づいたら些細な変化でも観察しながら支援を行っている。状態によっては母体病院のドクターに助言指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所で保管している医薬品集や薬局から発行される「薬の説明書」から内容を確認している。個々のお薬手帳に記載されている処方内容を把握し、薬の変更があった時は状態の観察を密に行なうように意識付けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として水分摂取と補給に努め、便通を良くするような飲み物も時には置いたりしている。入居者の力に見合った運動支援も行っている。便秘(3日)が続いた時は主治医の指示する下剤で対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後職員の誘導 一部介助にて洗面所で歯磨き支援を行っている。自分で出来る人は部屋の洗面台で行っている。上下義歯の入居者は義歯洗浄剤での支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者1人ひとりの水分摂取と毎食の食事量のチェックを行い、記録に残すことで栄養状態を把握している。10時と15時のおやつ時に水分を促すようにしている。いつでもお茶が飲めるように台所のカウンターに急須を置いてある。		入居者1人ひとりの摂取カロリーを把握する為摂取カロリー値を表にして明示してある。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体病院の感染対策委員会の感染対策マニュアルに沿って実行している。家族への情報提供や家族も含めての感染予防に努めている。毎年職員と入居者が母体病院でインフルエンザワクチンの接種を行っている。		インフルエンザの流行時には外出をひかえうがいや手洗いを多めに行い風邪引きの防止に努めている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場で使うまな板や包丁は洗剤で洗い、食器乾燥機による消毒、食材は母体病院からパックされて来るので衛生面においては安全で新鮮である。台所での調理時は常に台所用のエプロンを着用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に表札を掲げ建物の周囲は造園され、庭園には散歩コースやあずま屋根の休憩所があり癒しの空間作りが出来ている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は間接照明になっており快適な照明空間になっている。テレビやラジオの音調は入居者の要望を聞いて調整している。ロビーは広々としており、食卓やソファ、畳間があり共有空間は十分に確保されている。花瓶には季節の花が生けられている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間から離れた東側の出入口の所に長いすが置いてあり、1人で静かに過したり、2～3人で座って会話が出来る空間作りがされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が家庭で使い慣れた家具や電化製品、生活用品、装飾品が置かれ家庭の雰囲気を感じさせる。部屋の整備は本人の意向を尊重し行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	廊下の中央の天井には開閉式の換気孔があり、常に換気が行える構造になっている為換気を適宜行っている。空調設備も整っており利用者の状態に応じて温度調節を適宜行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計段階からすべての設計がバリアフリーで、居室、トイレ、浴室などの入り口は車椅子でも簡単に出入りできる広さを確保され、廊下、トイレ、浴室に手すりの整備もされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者1人ひとりの認知度の程度を把握し、見当識の著明な入居者へは、自分の部屋がわかるように部屋の入り口に名前を表示し側に本人の写真を貼り付けるなどの工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物から庭へ自由に出入りすることができ、散策路も整っている。ベランダにはプランターを用意し入居者が季節の花を植えられるように準備してある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

○ グループホーム月桃は、周辺が心を癒す緑豊かな環境にあり、身近で自然に触れ合う事が出来る。生活空間はバリアフリーで広々としており8畳の個室と広々としたフロアで自由に使える空間になっている。広々としたフロアからは庭が一望に見渡せる。入居者に対しては「その人らしく暮らせる」環境作りに力を入れている。日々の取り組みとしては入居者が安心して生活できるよう支援すると共に、入居者1人ひとりの質の向上を図り、家族や地域との交流の幅を広げ地域社会の一員として暮らしていけるよう支援していきたい。